

目的 現在、スカートのデザインも多様化し、様々な形のスカートが着用されている。その中で、最も感覚性と密接な関係を持つフレアースカートは、素材や地の目の方向、また、フレア分量などによる影響が大きく、パターンメイキングは、デザイナーあるいはパターンナーの経験からくる感覚に頼られている。そこで、イメージに添ったフレア感（フレアースカート全体から湧きでる表現）にかたうパターンを容易にひきだして、パターンメイキングの簡略化を計り、イメージからパターンへのアプローチを目的とした。

方法 パターンメイキングの方法として2種を選択し、検討した。一つは、半径を割り出して円弧を描く方法であり、これをコンピュータで作成した。他の一つは、スカート原型のダーツをたんでフレア原型を作り、ヒョウ才法を確保した上で切り開く方法である。各々の方法でフレア分量を5種、布の厚さの違いとしてシーチング2種を設定し、地の目は前後中心をバイアス方向にとり、実物を製作した。その中から1パターンを選択し4種の素材を用いて実物を製作した。これらを入台に着用させ、写真撮影し、裾線形状を測定した。それらから、フレアマップ（一覧表）を作成し、任意のデザイン画との対応を試みた。

結果 パターンメイキングの方法、フレア分量、布の厚さの違いによるフレア感と比較検討し、そのフレアマップを作成することができた。これをもとに、求めるフレア感に対応するパターンが容易に選定できることを確認した。